

国際空手道連盟一般社団法人極真会館愛媛県戸田道場 機関紙

極真への道



The way to Kyokushin

第9号

國本明佳選手特集

第5回愛媛県空手道選手権大会

第23回全日本少年少女空手道選手権大会
(グランドチャンピオン決定戦)

田畑繁師範セミナー

第6回愛媛県戸田道場交流試合

平成30年強化選手指定

強豪列伝

All Japan Kyokushin Union

2018.3 発行

大いなる飛躍に向けて

極真空手の技と精神の確実な継承

国際空手道連盟一般社団法人
極真会館 愛媛県戸田道場 代表師範 戸田美智男



代表師範 戸田美智男

昨年12月10日、遠く山形から極真会館副理事長である田畑繁師範(8段)をお招きして砥部町武道館でセミナーを開催しました。

大山倍達総裁の内弟子として3年間に亘り直接総裁から指導を受けた方であり、その後総本部指導員を勤められ、まさしく極真空手の伝道者であり、その指導を受けることにより道場生の皆さんに正しい極真の技と精神を学んで欲しかったのです。

極真会館は大山総裁が亡くなった後に大きく分裂したのですが、中には総裁の技と精神をきちんと継承するのではなく、技を都合よく変えるケースが散見されるようになりました。

私は4年前の夏に、3日間に亘り山形市の田畑道場総本部に出稽古にお邪魔し、田畑師範により内弟子時代と寸分も変えていないという技を厳しく指導して頂き、今までやって来たものの一部が本来の大山総裁のものとは違うことを知り、正しい極真の技を広めなければならぬという思いが湧いてきたのでした。

その上、各道場の指導に回った際に、準備運動を初め、基本や移動の順番がバラバラであり、とても同じ組織とは思えない状況を非常に危惧していました。

この二つの出来事から、正しい極真の技の継承と技の統一をすべきであると考え続け、ついに田畑師範の指導の下、昨年9月に皆さんが戸惑わない程度に準備運動、基本、移動の種類と順番を統一し、県内どこの道場でも同じ技を同じ順番で出来るようにしたのでした。

改正直後の秋合宿で全てを示し、今回のセミナーを行った上で今年1月から正式な変更を行い、昇級・昇段審査もそれに基づいて行うようにしたのでした。

極真を名乗る他派閥では試合方法を大きく変えたり、大会時に大山総裁の写真を飾らなかつたりするケースも増えてきました。我々が加盟する一般社団法人極真会館は、世界60ヶ国に広がる大きな組織である上、大山総裁存命中と全く同じ大会の開催方法を継続しています。

さらに、田畑師範初め多数の師範方が、毎月のように世界各地に真の極真の技と精神を広めるために指導に行っています。

私も極真の理事として、今年中に海外へ指導に行くように要請されています。

道場生の皆さんには、現状を知ってもらい、我々が真の極真空手の技と精神を伝承しているという誇りをも持って修行に臨んで頂きたいと願っています。

道場生、少年部保護者そして支援者の皆様のご理解を宜しくお願い致します。

第22回 全日本少年少女空手道選手権大会

《オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦》

國本明佳選手 高校生女子重量級 **優勝**

1日目、松井選手、北選手 3位入賞

武道の殿堂、大阪府立体育館で昨年6月24日(土)、25日(日)の両日に

亘って開催された第22回全日本少年少女選手権大会(グランドチャンピオン決定戦)には、全国の権利指定大会を勝ち抜いた500人を越える選手が集まり、館内は立錐の余地が無いほどの観客で埋まり熱戦が繰り広げられた。

戸田道場からは6人の精鋭が出場し初入賞を狙って激しく戦ったものの、1日目に登場した岡裕人(小1本部)、松井瞭誠(小5 常磐)、山下凌(中1 常磐)の3人は序盤で判定負けにより敗れてしまい、来年こそは雪辱を晴らすという思いを強く胸に刻んだ。

ところが、小学6年女子の部に出場した北彩花(常磐)は1回戦はシード、2回戦は仲澤瑠美(極真東京紅衛会)を圧倒し本戦5対0の判定勝ち、3回戦は伊藤あん(真誠会)と接戦を制し本戦を3対0で判定勝ちを収めて準決勝戦に進み、この瞬間3位以上が確実となった。ところが準決勝戦では、強豪の富田藍海(新極真)の突き技にまさかの一本負けを喫してしまった。

更には、中学2年男子軽量級に出場した松井弥陸(常磐)は1回戦の吉田凜太郎(真士会)、2回戦の児島大心(森上道場)を突き蹴りで圧倒して共に本戦5対0のスコアで準決勝に進み、同じくこの時点で3位以上の入賞が決定した。しかし、次の試合、強敵の関西総本部、南出和志とは一進一退の攻防を続けたが、焦った時に反則をしてしまう悪い癖が出て顔面殴打2回減点1となり、本戦で無念の敗退となった。しかし2人共、戸田道場から出場して以来、初めての入賞という素晴らしい結果を出し、2日目に出場する國本選手の活躍に優勝の夢をつないだ。



松井弥陸選手(右)



左から松井選手、戸田師範、北選手

2日目、國本選手ついに頂点に！

6月25日(日)は全日本ウェイト制大会と同日にグランドチャンピオン大会高校生の部が行われ、高校生女子重量級に出場した國

本晴佳選手は、昨年度の初戦敗退から「必ず優勝する」という気持ちを強く持ち続け「ウェイトトレーニング、スタミナ稽古、攻撃の出入りと組み立てを意識した稽古」を重点的に行ってこの大会に備えてきた。

稽古の成果が著しかったのは、1回戦白蓮会館の仲田凜選手との戦いであった。間合いが詰まった時の突き蹴りが確実に入り、5対0の一方向的な判定勝ちとなった。2回戦こそ、森上道場の前田愛花選手に粘られ本戦は引き分けとなったが、延長では3対1と手堅く勝利を収めた。

準決勝は関西総本部の日高悠李選手に鋭い攻撃を浴びせ4体0と本戦勝利、決勝は昨年3位の強豪、極真三重橋本道場の伊藤いぶき選手との一戦、國本選手が突きと上段廻し蹴りで圧倒して決勝戦と思えない一方向的な戦いとなり、本戦5対0で完全勝利を得て、ついに優勝の栄冠を手に入れたのだった。

この春社会人になるが、このまましっかり稽古を続ければ、JFKO全日本大会、連合会のウェイト制全日本大会と無差別全日本大会の3大会入賞、そして3年後の世界大会での活躍が実現となる可能性が限りなく高い。



國本選手(前列右から2番目)

日頃は普通の女の子 國本明佳選手にインタビュー



ステップを踏みながら、電光石火の技を繰り出して勝利を掴む國本明佳選手。戸田道場の監督を務める神原敏行先生の秘蔵っ子。父親の貴裕さんとの二人三脚の稽古は有名だか、いったいどんな稽古をして強くなったのか。また、日頃はどんな女子高校生なのか聞いてみました。

←インタビューに答える國本選手

- Q. チャンピオンになった時の気持ちはどうでしたか。
- A. 多くの方々の協力があったからこそ残すことのできた結果なので、感謝の気持ちでいっぱいでした。また、全日本チャンピオンになることをずっと目標にしていたので、今までで一番嬉しかったです。
- Q. グラチャンに際し、どんな稽古に力を入れましたか。
- A. スタミナ強化はもちろんですが、攻撃の出入りや組み立て方を特に意識して稽古をしました。
- Q. 空手以外で何をしている時が一番楽しいですか。
- A. 友達と休日に遊ぶことや、学校の休み時間やお弁当の時間が一番楽しいです。
- Q. 今後、空手に関し何を目指しますか。
- A. JFKO(全日本フルコンタクト連盟 フルコン空手組織の7割が加盟の主催全日本大会)やウェイト制など一般の全日本大会でも優勝し、世界大会でも優勝することが最終目標です。また、私が先生や先輩を目標にしてきたように、後輩に目標にしてもらえるような選手になりたいです。



第5回愛媛県空手道選手権大会

〔愛媛のNO.1を決める大会〕

平成 29 年7月17日(月・祝)、大会出場者数約400名、出場者の多くは各流派での大会入賞選手。愛媛県で開催されるフルコンタクト空手の大会において最高水準、そして最大の選手権大会が愛媛県武道館主道場で開催された。

一般男子上級の部 重量級

第3回愛媛県空手道選手権大会で愛媛を震撼させた世界大会日本代表の芦高侑平選手(大阪極真関西総本部)、「愛媛県戸田道場の至宝」世界大会日本代表の志賀賢一選手(愛媛極真戸田)、「琉



芦高侑平選手(左)対志賀賢一選手(右)

道会館の最新兵器」世界大会日本代表の釘島虹補選手(琉道會館)、「戸田道場期待のホープ」櫻井隼人選手(愛媛極真戸田)、「香川桑島道場からの刺客」平野真選手(香川極真桑島)を含む6名の選手が競い合う空前絶後のトーナメントとなった。

準々決勝、櫻井隼人選手が田口研二選手(香川極真桑島)に本戦優勢勝ち。釘島虹補選手が平野真選手に本戦優勢勝ちで、両名が準決勝に進出した。

準決勝一試合、芦高侑平選手対櫻井隼人選手。芦高侑平選手に対し櫻井隼人選手は善戦し、本戦引き分けたが、延長戦は怒涛のラッシュで芦高侑平選手の優勢勝ち。準決勝第二試合、志賀賢一選手対釘島虹帆選手。世界大会出場者同士の対決。本戦引き分け。延長戦引き分け。再延長戦の末、気迫で勝った志賀賢一選手の優勢勝ちとなった。

決勝戦は芦高侑平選手対志賀賢一選手。全日本大会でも数度戦っている因縁の対決。また、こちらも世界大会出場者同士の戦い。本戦引き分け。延長戦の末、芦高侑平選手が試合運びで勝ることができ、優勢勝ちで優勝を勝ち取った。

優勝した芦高侑平選手は「ここ2年間、優勝が無かったので本当に嬉しいです。」とコメントした。

一般男子上級の部 軽中量級

世界大会日本代表の神原敏行選手(愛媛極真戸田)、愛媛県フルコンタクト空手会を選手として今もなお牽引しているベテラン福田高広選手(福田道場)をはじめ、各流派の軽中量級最強の20名が白熱した戦いを繰り広げた。

準々決勝、神原敏行選手対直野天佑選手(愛媛極真戸田)の同門対決は神原敏行選手が本戦優勢勝ち。西崎優斗(大阪極真関西総本部)対宮本良則(正道会館)は西崎優斗選手が本戦優勢勝ち。越智康選手(愛媛極真戸田)対原田一晟選手(国際如水)は本戦引き分け。延長戦にて越智康選手が上段突きによる技ありを2つ取り、合わせて一本勝ち。藤原弘之選手(愛媛極真戸田)対福田高広選手は福田高広選手が中段前蹴りにより本戦一本勝ちとなった。

準決勝第一試合、神原敏行選手対西崎優斗選手。本戦、延長戦、再延長戦、体重判定でも決着がつかず再々延長戦の末、神原敏行選手が優勢勝ち。準決勝第二試合、越智康選手対福田高広選手は福田高広選手が本戦優勢勝ちとなった。

決勝戦は神原敏行選手対福田高広選手。実力が伯仲している両名の選手。本戦引き分け。延長戦引き分け。再延長戦の末、福田高広選手が僅差で優勢勝ちとなり、優勝を勝ち取った。

優勝した福田高広選手は「捨てない気持ちが結果に繋がった。」とコメントした。



福田高広選手(左)対神原敏行選手(右)

高校生以上女子の部 無差別



佐々木郁美選手(左)対國本明佳選手(右)

全日本少年少女空手道選手権大会の高校生女子重量級覇者の國本明佳(愛媛極真戸田)、世界大会日本代表として活躍したベテラン佐々木郁美(香川極真桑島)を含む6名が出場する、西日本女子空手界最強決定戦となった。

決勝戦は國本明佳選手対佐々木郁美選手。女子空手最高水準の戦いは、間合いを制した國本明佳選手が優勢勝ちとなり、優勝を勝ち取った。

優勝した國本明佳選手は「自分の試合ができれば勝てると信じていた。今後は世界大会に出場できるように頑張りたい。」とコメントした。

第5回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会結果

	優勝		準優勝		3位		3位	
幼年の部	関岡湊斗	悠心道場	小井義斗	極真富山	高橋瑛徳	極真愛媛	清家利孔	吉村道場
小学1年の部	岡裕人	極真愛媛	石岡優音	志成館	宮内桜那花	志成館	武智真人	道真會館
小学2年の部	大嶋隆太郎	至道會館	西山歩輝	極真香川	津波古琉喜	極真愛媛	野本生真	道真會館
小学3年生初級の部	黒川憶十	河野道場	高岡日向	悠心道場	清水賢	河野道場	東優伸	極真愛媛
小学3年生上級の部	安藤賢晋	至道會館	山本陸	新極真会	久保天路	国際如水	清水航一郎	極真愛媛
小学4年女子の部	柏田萌菜	国際如水会館	小島滯菜	正道会館	高橋きら莉	極真香川	中杉蓮	福山道場
小学4年男子初級の部	堀川晴陽	拳武道会館	木本岳	極真広島	黒田憲太郎	極真愛媛	岩村勇吾	志成館
小学4年男子上級の部	村川明	極真宮崎	竹井蓮人	極真宮崎	高橋清十朗	福田道場	白地佑成	正道会館
小学5年女子の部	小倉花恋	正道会館	佐伯姫夏	国際如水	右手葉月	琉道會館	森涼葉	新極真会
小学5年男子初級の部	三原龍空	悠心道場	原田暁	至道會館				
小学5年男子上級の部	中山拳杜	白蓮会館	仲海信	白蓮会館	東虎之介	極真宮崎	深川雄清	忍会館
小学6年女子の部	北彩花	極真愛媛	山中咲和	新極真会				
小学6年男子初級の部	中本英宏	極真愛媛	福居航輝	正道会館	平下乃望	極真広島	門田和馬	道真會館
小学6年男子上級の部	原田将栄	関西総本部	植野元太	福田道場	尾上仁勇	極真香川	宮本悠矢	日本如水
中学女子の部	小笠原伶奈	福山道場	竹井萌	極真宮崎	白鳥颯葵	明心会館	小山晴渚	極真香川
中学男子軽量級	松井弥陸	極真愛媛	真鍋貫太郎	至道會館	山中堅太	新極真会	大政翔馬	道真會館
中学男子重量級	三上汰明	新極真会	柳瀬優勝	新極真会				
高校男子	岡林龍	龍生会館	廣田葵生	至道會館	森下蒼太	新極真会	山中湧太	新極真会
一般男子初級の部	木村翔吾	拳武道会館	白石将博	極真愛媛				
壮年の部	竹井龍三	極真宮崎	原田美彦	関西総本部	東坂謙二郎	極真森上	大西賢紀	関西総本部
高校生以上女子の部	國本明佳	極真愛媛	佐々木郁美	極真香川				
一般男子上級軽中量級	福田高広	福田道場	神原敏行	極真愛媛	西崎優斗	関西総本部	越智康	極真愛媛
一般男子上級重量級	芦高侑平	関西総本部	志賀賢一	極真愛媛				

第48回オープントーナメント

全日本空手道 《志賀賢一選手第8位入賞》 選手権大会

平成29年11月5日(日)駒沢オリンピック記念公園総合運動場屋内競技場において開催された(一社)極真会館主催の全日本大会。この大会を3連覇した世界大会優勝の長田裕也選手(琉道會館)がエントリーしなかったことから「無差別王者の栄冠は誰の手に」と注目が集まった。

本大会の本命は6月に行なわれたウェイト制重量級王者の重松翔(宮崎極真山下)。初戦の大内巨成(東京極真城西三和)は中段廻し蹴り合わせ一本勝ち。準々決勝の小森柊人(大阪極真関西総本部)は左下段蹴りで合わせ一本勝ち。さらに準決勝ではウェイト制重量級2位の金鐘吉(大阪極真関西総本部)に同じく左下段蹴りで合わせ一本勝ち。まさに優勝候補筆頭の実力を見せ付けながら決勝にたどり着いた。

決勝の対戦相手は、一歳年下で初対戦となる芦高侑平(大阪極真関西総本部)。準決勝では堀晃輔(大阪極真学連大阪国際大学)を5対0で圧倒して下している。

決勝は両者時計と逆回転に動きながら、徐々に打ち合い、サウスポーに構える重松は左の蹴りで芦高を攻める。対する芦高はバレーキックから下段突き、後半はインローで攻めるも互いに攻め手を欠き0対0引き分け。

延長戦は重松の左の蹴りに加え、飛び膝蹴りが効果的であるも2対0の判定で引き分けとなる。再延長は「再延長で重松選手の心が折れるのが分かった」と言う芦高が、突きからの膝蹴りによるラッシュで前に出て圧倒し5対0で完勝して、ついに初優勝を飾った。

愛媛県戸田道場から出場した志賀賢一は世界大会出場選手と言うことで一回戦はシード。二回戦は極真沖縄県支部の沖縄県大会準優勝者多田真大との闘いでは、出稽古で戸田師範から指導を受けた上段廻し蹴りなど、終始突き蹴りで猛攻し5対0で圧勝した。続く準々決勝は愛媛県大会の元優勝者である堀晃輔(大阪 極真学連大阪国際大学)との対戦。本戦はサウスポーに構えた志賀の攻撃が有効であったものの旗が1本しか上がらずに延長戦となる。延長となると若さに勝る堀がやや攻撃力が勝り、3対0で惜しくも判定負けとなるも8位入賞となった。志賀選手は年齢を重ねたが誰もがその進化を認める戦いをした。



8位入賞した志賀選手を囲んで

その他、女子無差別は浅古麗美(埼玉県極真木村)が元世界王者の増山愛理(東京極真広尾)を5対0で破り優勝。壮年男子A(40代)は黒沼誠(山形極真田畑)が長身から繰り出す膝蹴り等を武器にして加藤一博(神奈川極真加藤)を3対0の判定で勝ち優勝。壮年B(50歳代)は田福雄一(沖縄極真)が大浜博明(東京極真広尾)に下段突きや下段蹴りでペースを握り優勝した。

第5回極真ワールドカップ大会 重松翔優勝

昨年11月12日～13日インドネシアのジャカルタにて社団法人極真会館が主催する「第5回極真ワールドカップ大会」が世界50か国の参加で行われた。

男子重量級に出場した重松翔(宮崎極真山下)は決勝戦で金鐘吉(大阪極真関西総本部)と対戦。金の1週間前の全日本大会のリベンジならず、同じ左下段の合わせ1本負けとなり、3位にはグラッドミア(カザフスタン)が入った。

男子中量級は、御宮知慎悟(関西総本部)がモスタファ・ファクリー(イラク)を下して優勝した。

男子軽量級は筒井雄基(宮崎極真山下)が決勝で敗れ準優勝となった。

女子重量級は決勝戦でミリアム・ハリフ(カナダ)がアブドゥル・カノーバ・クンスル(カザフスタン)に勝利し優勝を得た。

女子軽量級は愛媛県大会で準優勝に入賞歴のある福德萌花(東京紅衛会道場)がタチアナ・ムノバサ・サニア(カザフスタン)を退けて優勝を獲得した。

型の部では外国勢、特に地元インドネシアとカザフスタン等海外が強く日本選手の入賞はなかった。



栄えある入賞者 (平成29年5月以降)

組織創設から6年目、各種大会で入賞者が大きく増えてきた。

「最強求道の志」を胸に、懸命に選手を育ててきた道のりは長く遠く未だに到達点は見えない。しかし、昨年1年間で20以上の各種大会に500人以上の選手が出場して多くの選手が表彰状を手にしており、我々が目指す目標に向けて道場生の力は確実に高くなっている。

○第22回香川県大会(5/21 高松市 極真会館桑島道場主催)

優勝 岡裕人(小学1年 本部)、北彩花(小学5・6年女子 常盤)、菊川真莉紗(中学1年女子 波方)

準優勝 北光希(小学3年男子 常盤) **第3位** 津波古琉喜(小学2年 常盤)、井上元秀(小学2年 常盤)、松井瞭誠(小学5年男子 常盤)、山下凌(中学1年男子 常盤)、藤本努(壮年A 本部)

○瀬戸内ジュニア空手道リーグ戦(6/12 今治市 秋山道場主催)

優勝 岡裕人(小1 本部)、岩城斗也(小1 西条)、黒田さくら(小1 味酒)、瀧田蓮(小2 川東)

真鍋瑛太・白石悠翔(小3 川東)、寒作円(小3 本部)、東優伸(小3 常磐)、越智龍(小4 川東)、越智和(小4 常磐)、松井瞭誠(小5 常磐)、菊池涼粋(小5 大洲)、福岡洗大(小6 本部)

準優勝 戎居虎太郎(小1 味酒)、松井瞳衣(小1 常磐)、伊藤理人(小2 常磐)、福岡陽澄(小3 本部)、宮野琉偉(小4 常磐)、小澤叶夢(小4 西条)、山下駿(小5 常磐)、八木幸保(小5 波方)

○ポイント&KO四国選抜大会(8/26 県武道館剣道場 国際如水主催)

優勝 黒田さくら(小1女子 味酒) **第4位** 池内琥星(小2 味酒)

○拳武道会館全日本少年少女大会(10/29 新居浜 拳武道会館主催)

第3位 神原雅斗(小6男子 常盤)

○全中四国交流大会(11/19 高松市 極真会館桑島道場主催)

優勝 岡裕人(小1 本部)、津波古琉喜(小2中上級 常盤)、北光希(小3中上級 常盤)、北彩花(小6女子 常盤)、菊川真莉紗(中1女子 波方)、近藤さやの(中2・3年女子 本部)、丹下英人(壮年A 県警)**準優勝** 瀧田蓮(小2初級 川東)、福岡陽澄(小3中上級 本部)

第3位 白石悠(小3 初級 川東)、越智和(小4中上級 常盤)、扇山明直(小6 男子 波方)

○剛拳全日本大会(11/19 四国中央市 剛拳連盟主催)

優勝 戎居虎太郎(小1 中級 味酒)、池内琥星(小2 中級 味酒)、松井弥陸(中学男子軽量級 常盤)

準優勝 東悠樹(小3 中級 本部)、神原雅斗(小6 男子上級 常盤) **第3位** 清水航一郎(小3中級 本部)、曾我郁哉(一般上級軽量級)

○第20回愛媛県少年大会・第19回四国新人戦(11/26 伊予市 正道会館四国本部主催)

優勝 神原雅斗(小6年チャレンジ 常盤)、松井弥陸(中2チャンピオン 常盤)

第3位 東悠樹(小3チャレンジ 本部)、村上哲也(マスターズ37歳以上 県警)



○全四国錬成大会(12/3 愛媛県武道館 新極真三好道場主催)

優勝 北彩花(小6女子 常盤)**準優勝** 福岡陽澄(小3 中級 本部)**第3位** 北光希(小3 上級 常盤)

○第1回琉道杯全日本交流大会(1/27 兵庫県総合体育館 琉道会館主催)

優勝 國本明佳(一般女子上級 常磐) **準優勝** 松井弥陸(中学生男子軽量級 常磐)

○第4回ローズカップ(1/28)

優勝 松井弥陸(中学生男子軽量級 常磐)、北彩花(小学6年女子 常磐)、神原雅斗(小学5年男子中級 常磐)、東悠樹(小3男子初級 本部)、**第3位** 北光希(小3男子 常盤)

○広島親善大会(2/12 東広島運動公園体育館 極真会館宗政道場主催)

優勝 北彩花(小学6年女子 常盤)、高橋葵唯(小学4年男子 川東)

○第4回宮崎県大会(3/4 KIRISHIMA ツワヰキ武道館 宮崎県山下道場主催)

優勝 松井弥陸(中学生男子軽量級 常盤)、**第3位** 松井瞭誠(小学5年男子 常盤)

強豪 列伝

國本晴佳選手に続く女子選手 2 人

オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦 3 位

北彩花 (常盤道場 小学 6 年生)

優勝の二文字がこれほど似合う選手はいません。昨年 1 年間を見ても大洲少年大会、愛媛県大会という戸田道場主催大会はもちろん、香川や広島の極真主催大会、新極真等の他流派主催大会など出場した全てで優勝をするという快挙を成し遂げ、唯一優勝できなかったのが、3 位入賞の全日本少年少女空手道選手権大会という安定した力の持ち主です。

恵まれた体格から繰り出すパワーあふれる膝蹴りや突き技で、相手を圧倒してきました。しかし、彼女は恵まれた身体だけで勝利を得てきたわけではありません。出場した大会の自分を含む同学年の全ての女子、時には他の学年の試合巧者の選手の試合を録画して、後で自分の動きをチェックすると共に、次の試合に生かすために選手の動きや弱点を研究して、良い技があれば繰り返し稽古をして自分が使えるように取り入れるという、研究熱心さと努力が現在の彼女を作り上げているのです。

今年は弟の光希君も強化選手に指定され、共にグラチャンに出場しますが、昨年の雪辱に燃えており更なる上位の入賞が現実となることが期待されます。



身体能力の高さ抜群 菊川真莉紗 (波方道場 中学 1 年生)



昨年出場した大洲少年大会、香川県大会、中四国交流大会の全てで優勝(大洲少年大会と中四国交流大会は2連覇)の実績を持ち、今年は全日本少年少女空手道選手権大会の出場権を得て、全国の舞台に名乗りを上げます。

愛媛県のジュニアアスリート発掘事業のスポーツアカデミー生の認定試験に最終選考まで残った、その身体能力の高さは折り紙付きで、特に長距離を得意とし、身体能力の高さから組手における延長戦には絶対の自信を持っています。

組手のスタイルは小細工なしの真っ向勝負が身上で、突きからの下段廻し蹴りへの素早いコンビネーションと、時折出す切れのある上段廻し蹴りを得意とします。今後さらに突き技に磨きをかけて頂点を目指します。

もう一つ特筆されることは、その精神面の強さで、厳しい稽古でも決して手を抜くことがなく、また試合中苦しい展開になっても決してあきらめない粘り強さと精神力を持って、今後ますます活躍してくれるものと期待しています。

(波方・桜井道場責任者 今西師範代)

第23回全日本少年少女空手道大会《オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦》 出場者の決意

昨年、國本明佳選手が高校生女子全日本チャンピオンに輝いた。今年も國本選手に続き入賞ができることを期待したい。



岡裕人選手
(小学1年本部道場)

グラチャンは2回目になります。昨年は1回戦で負けてしまったので、今年は1回でも勝ちたいです。得意技のヒザ蹴りを決めたいです。



北彩花選手
(小学6年常盤道場)

自分の実力を全部出しきれるように頑張ります！



北光希選手
(小学3年常盤道場)

初めての全国大会。最後まであきらめずにがんばります！



津波古琉喜選手
(小学2年常盤道場)

緊張すると思うけど、強い気持ちを持って頑張ります！



菊川真莉紗選手
(中学1年波方道場)

空手で関わった全ての人へ感謝の気持ちを込めて試合に臨みます。



近藤さやの選手
(中学2年本部道場)

しっかりと練習し、代表として恥のない戦い方をしたいです。



山下凌選手
(中学1年常盤道場)

全力を尽くし、上位入賞できるよう頑張ります！



松井弥陸選手
(中学2年常盤道場)

関西総本部のチャンピオンに勝つことです。押忍！

時の人

自転車全日本大学対抗選手権大会 優勝 本部道場 近藤翔馬君

昨年8月31日から9月3日にかけて、長野県美鈴自転車競技場に行なわれた自転車の全日本大学対抗選手権大会の男子スクラッチに出場した近藤翔馬君(法政大学)が優勝し、さらに団体追い抜きでも3位に入りました。近藤翔馬君は幼稚園から本部道場で極真空手を修業し、中学時代は愛媛県大会で3位に入賞した経験があります。高校は松山聖陵高校の自転車部に入部し、優秀な成績を収めました。現在も極真空手が忘れられず休会中で、本部道場の道場生として名前が残っています。妹は強化指定選手Aの近藤さやのさん(中学2年)です。

近藤翔馬さんの話「格上の選手が多く、レース後は本当に自分が勝ったのかと思った。有力な選手をマークしながら最後に差し切れた。今まで結果が出なかったが、やって来たことは無駄じゃなかった。」(愛媛新聞より)



近藤翔馬選手(中央)

高齢者保護で警察から感謝状 三津道場 烏谷伸先生

松山三津道場の責任者である烏谷伸先生は、松山市味生地区の自主防犯ボランティア「味生防犯パトロール隊」の隊員として、長年、犯罪抑止や青少年健全活動のために夜間パトロールを行っています。

昨年11月の夜に隊員4人でパトロール中、捜索願が出ていた80歳代の男性を発見し保護して家族に引き渡しました。

その功労で後日4人全員が、松山西警察署長から感謝状を授与されました。

烏谷先生は「今後も極真精神を胸に、市民の安全を守るために頑張ります。」と意気込んでいました。



田 畑 繁 師 範 審 判 講 習 会

12月10日(日)に砥部町陶かい道ゆとり公園武道館において、(一社)極真会館副理事長 田畑繁師範(8段)をお招きしてセミナーを実施しました。

田畑師範は大山倍達総裁の内弟子を3年間した後、総本部指導員を経て総裁の命で地元山形県において、極真空手を広げる為に道場を開設しておられます。

大山総裁が創られた極真空手の継承者として、これまでに世界各地で60回以上セミナーを開催しておられ、国内では愛媛県が初めての開催となりました。

香川県桑島道場、広島県宗政道場の道場生を含めた約80人の参加者に対して、準備運動から基本、移動、型に至るまで、内弟子当時と全く同じ内容を大山総裁のエピソードを交えながら熱く指導されました。

終了後は、田畑師範を講師として3県44人が審判講習会を受審し、全員が合格しました。



第 愛媛県戸田道場交流試合 6 観 戦 記 回

新居浜上部道場
責任者（師範代） 濱井敦史

私が極真空手に入門した 34 年前には、フルコンタクト空手の大会といえば夏のウェイト制と冬の全日本、そしてその大会への登竜門となる各地方大会ぐらいで、選手は道場生の中でも若くて血気盛んな成人男性に限られておりました。少年部や女子部、壮年部の大会も皆無で型試合もありませんでした。まさに直接打撃制、勝負偏重主義の異端空手として世間からは見られていた時代です。

その後時代は変遷し、子供たちや女性も空手と接する機会が増え、いまや各大会上位入賞者は少年部からの経験者が多く占めるほどになりました。また女子の活躍も目覚ましく、男子には見られない華麗でスピード感ある組手や型を披露してくれます。

さて今回で 6 回目を迎える戸田道場交流試合が、砥部町ゆとり公園武道場にて 12 月 17 日(日)に行われました。第 1 回大会では型試合 34 名、組手試合 38 名の出場でしたが、今回は実に型試合に 123 名、組手には 152 名のエントリーがあり、約 4 倍に増えております。

交流試合はあくまで初心者や試合経験の少ない道場生を対象とした大会ですが、年々各道場生の試合に臨む気持ちが強くなり、技術力も向上しております。その反面、実力差が顕著に表れる試合もありました。しかし、どんな試合であれ経験することが大切で、勝負とは決して楽なものではないと感じ、悔しい思いを次の稽古につなげ、また挑戦するという前向きで健全な闘争心が、出場選手個人に生まれることが交流試合の本質です。

型試合においては「技の緩急」「力の強弱」「息の調整」という 3 要素があります。そしてそれらをコントロールするのは平常心と気合いです。何度も何度も地道に繰り返し稽古したもののみが型試合で実力を発揮できます。今回は残念なことが一つありました。型を始める前の「押忍」の挨拶です。武道は礼に始まり礼で終わると申しますが、「押忍」は礼そのものです。腹の底から「押忍」の言葉を発し十字を切って不動立ちになる。この基本動作を今一度道場生に徹底させ、極真空手における押忍の意味(尊敬・感謝・忍耐)を理解していただきたく思います。

組手は、幼年部から一般男子上級まで、素晴らしく魂のこもった試合が多くみられました。審判をしていても判定に困るほどでした。また普段稽古で見せない気迫を見せた選手、逆に会場の雰囲気にもまれて実力を出し切れなかった選手。笑顔有り、泣き顔ありで会場全体が非常に盛り上がりました。観客の応援マナーも良く、極真精神をしっかり体現できたと思います。

年々大規模になりつつある交流試合ですが、初心者が挑戦でき、学び、鍛える場としての貴重な大会であることは今後も変わらないと思います。大会開催にご尽力くださいました戸田師範はじめ師範代、責任者の先生、スタッフの道場生、保護者の皆様に感謝申し上げます。押忍。

第6回戸田道場交流試合結果

(組手)

	優勝		準優勝		3位		3位	
幼年	寒作心	本部	佐藤大緒	西条	八木優磨	桜井	高橋瑛徳	本部
小学1年	戒居虎太郎	味酒	岩城斗也	西条	大森陽智	空港通	松井瞳依	常盤
小学2年	池内琥星	味酒	小松陽翔	味酒	神原杏菜	常盤	瀧田蓮	川東
小学3年生	東悠樹	本部	林修作	本部	伊藤銀河	本部	矢野礼	波方
小学4年男子	越智龍	新居浜警	池田翔真	常盤	黒田憲太郎	味酒	玉井翼	波方
小学4年女子	瀧田凜	川東	村上咲弥	空港通				
小学5年男子	河田佳晃	潮見	宇高悠斗	本部	石村楓真	波方	八木幸保	波方
小学6年男子	中本英宏	常盤	井村慎之介	波方	久保幸輝	大洲	福井龍閃	大洲
中学生男子	久保晴輝	大洲	福井天翔	大洲				
中学生女子	高橋みのり	中萩	國本真未	常盤				
高校生男子	宮園圭人	本部	八木聖矢	波方				
一般男子初級	白石将博	川東	高橋武	中萩				
一般男子上級	國本貴裕	常盤	丹下英人	県警				

(型)

	優勝		準優勝		3位		4位	
幼年	寒作心	本部	ローズマリ- ハダサ	本部	佐藤大緒	西条	八木優磨	桜井
低学年初級	白石悠翔	川東	渡部美理愛	波方	瀧田蓮	川東	荒牧優翔	空港通
低学年上級	寒作円	本部	真鍋瑛太	新居浜警	池内琥星	味酒	福岡陽澄	本部
高学年初級	渡部琉偉	波方	神原優花	常盤	玉井翼	桜井	村上咲弥	空港通
高学年上級	神原雅斗	常盤	宇高悠斗	本部	二宮快地	本部	八木幸保	波方
一般女子初級	白石妃菜	川東	宮崎小織	本部				
一般女子上級	菊川真莉紗	波方	渡部輝良々	波方				
一般男子	宮園圭人	本部	久保晴輝	大洲	山下凌	常盤	俊野彩樹	空港通



昇級審査合格者

昇級審査には昨年6月4日に52人、10月22日に65人の受審がありました。残念ながら合格基準に達してないとして3人の保留が出ました。受ければ合格する訳ではなく昇級しない場合もあり、逆に稽古をしつかり積んでいた人は飛び級をしました。又、インドネシアから来ている小学生の姉弟が初めて受審しました。

【6月4日】坊ちゃん球場スポーツフロア2

少年部

◆3級 矢野仁(波方)、扇山直直(波方) ◆4級 山下凌平(大洲) ◆5級 越智龍(川東)、越智和(常盤)
◆6級 半川菜々美(西条)、藤田皓雅(常盤)、中矢爽太(波方)、池内琥星、伊東千晃、黒田憲太郎(以上味酒)、水本知希(大洲) ◆7級 安藤秀虎(川東) 東優伸、神原優花(以上常盤)、岸本和也、井村慎之介(以上波方)、玉井翼(桜井) ◆8級 合田龍生、白石悠翔(以上川東)、鷲宥介、岩城斗也(以上西条)、伊藤理人、宮野琉緯(以上常盤)、矢野礼、井村蔵之介(以上波方)、岡裕人、仙波優佳(以上本部)、戎居虎太郎、田村英誉(以上味酒)、荒牧優翔(空港通り)、 ◆9級 合田蒼甫(川東)、ナイラ アドワシーファ マルラン、ムハマド ラーシャハニフ マルラン、小松陽翔(以上味酒)、片山和秦、末光礼、末光由羅(以上大洲)

一般部

◆1級 菊川姫梨、松井志輔(以上波方)
◆2級 松井亮諭(波方) ◆3級 國本貴裕(常盤)
◆5級 濱田晋太郎(本部) ◆6級 岸本大輔(波方)
◆7級 荒牧基尚(空港通り)



【10月22日】坊ちゃん球場スポーツフロア2

少年部

◆1級 菊川真莉紗(波方)、林建作(本部) ◆3級 真鍋武琉(川東)、北彩花(常盤)、水戸川怜斗(波方)、西村朔(大洲) ◆4級 山下駿(常盤)、渡部輝良々(波方)、寒作円、宇高悠斗(以上本部) ◆5級 真鍋瑛太(川東)、北光希(常盤)、小澤叶夢(西条)、八木幸保(波方)、林修作(本部)、大野花菜、相原海斗(空港通り) ◆6級 津波古琉喜(常盤)、石村楓真(波方)、菊池涼粋(大洲)、清水航一郎(本部) ◆7級 瀧田凜(川東)、濱本太陽、菊川大翔、木村壮真、木村美友、木村彰太、渡部琉偉(以上波方)、柚山晴輝(桜井)、吉川誠真(本部) ◆8級 渡部美里愛(波方)、黒田さくら、竹内佑生(以上味酒)、瀧田蓮(川東)、高瀬壮(西条)、村上一琉(本部)、西村健吾(味酒) ◆9級 辻田奈紗奈、川上颯太(以上川東)、黒川遥生(波方)、吉川優



杏(本部)、梶岡利玖(空港通り) ◆10級 高津乃々佳(川東)、八木優磨(桜井)、住田晴琉、住田蓮、松本瑛太、越智颯典、黒川歩生、稲垣琥雅(以上波方)、土井湊太(味酒)、佐川優菜(大洲)

一般部

◆1級 福井天翔(大洲) ◆4級 濱田晋太郎(本部)
◆5級 一色充、俊野彩樹(以上空港通り)、村上哲也(県警) ◆6級 國本真未(常盤) ◆9級 白鞘未羽(川東)、徳弘明優、兵頭佑紀、宮崎小織(以上本部)

平成 30 年度強化選手指定

昨年12月に道場責任者会議を開催し、本年度の強化選手A及びBの選考を行い下記の通り決定しました。
Aは新規に3人、指定解除3人、継続4人で昨年と同じ10人が指定され、Bは新規に6人、Aからの降格3人、指定解除5人、継続4人で昨年より1人多い13人が指定されました。

◆強化選手A 岡悠斗(小1 本部 新規)、津和古琉喜(小2 常磐 新規)、北光希(小3 常磐 継続)、北彩花(小6 常磐 継続)、菊川真莉紗(中1 波方 継続)、近藤さやの(中2 本部 継続)、松井弥陸(中2 常磐 継続)、國本明佳(高3 常磐 継続)、志賀賢一(一般 西条 継続)、神原敏行(一般 常磐 継続)
計 10 人

◆強化選手B 戎居虎太郎(小1 味酒 継続)、池内琥星(小2 味酒 新規)、東悠樹(小3 本部 継続)、清水航一郎(小3 本部 新規)、福岡陽澄(小3 本部 新規)、越智和(小4 常磐 降格)、松井瞭誠(小5 常磐 降格)、神原雅斗(小6 常磐 継続)、中本英宏(小6 常磐 新規)、扇山明直(小6 波方 新規)、山下凌(中1 常磐 降格)、白石将博(一般) 計 13 人

◎強化選手Aに指定される条件～グラチャン指定大会、もしくは極真会館が主催する指定大会で2位以上を年間2回入賞すること(指定大会 大洲少年大会、中四国交流大会(桑島道場主催)、広島県交流試合(宗政道場主催))

(選手支援は合宿費、極真会館主催大会の出場料を全額支援、全国大会の旅費一部支援)

◎強化選手Bに指定される条件～極真会館及び他流派主催の大会(初級は除く)4位以上入賞、部内交流大会、各大会の初級の部優勝のどちらか一方か組み合わせて年間2回入賞



トピックス

大阪国際大学極真空手でスポーツ特別推薦

大阪国際大学は大阪府吹田市にキャンパスがある、経営経済学部、国際教養学部、人間科学部、短期大学部を有するスポーツ部活動が活発な大学です。学内には佐藤智明教授(4段)を顧問とする極真空手道部があり、部員のうち3名は全日本大会の出場者で、その中の日高綺李さんは昨年の世界大会の女子重量級に出場しています。この3名はスポーツ推薦制度を利用して入学しており、優秀な選手であれば顧問推薦制を利用して入学料免除も可能です。大会出場を目指している中・高校生のモチベーションを高める情報ではないでしょうか。

グランドチャンピオン決定戦入賞の3人 菅今治市長を表敬訪問

第22回全日本少年少女選手権大会(グランドチャンピオン決定戦)で優勝した國本明佳選手(高校女子重量級)と、いずれも3位に入賞した松井弥陸選手(中学2年男子軽量級)北彩花選手(小学5年女子)の合計3人が昨年7月18日(月)に戸田師範、神原先生と村上孝治先輩や保護者の方達と共に今治市の菅良二市長を表敬訪問しました。菅市長は大学時代に空手道部に所属していたとのことで、大会前に出場報告をしていた3人の入賞を喜び、一人一人に労いとお祝いの言葉をかけて頂きました。



本部潮見道場、味酒道場に国際化の波

松山地区道場では、地球人まつりで来日外国人向けの「極真空手体験ブース」設置や、寒作智美先生がEPIC(愛媛県国際交流センター)で空手教室を開催する等外国人向けの活動を進めてきました。

その活動の結果、昨年7月に本部潮見道場にケニア出身のカノイ君(小学5年生 男子)とハダサさん(年長 女子)の兄妹が入門し、さらに12月には味酒道場にインドネシア出身のバソ ナスルラさん(40歳 男性)など一般部男女2人ずつと小学生男子2人女子4人の合計10人が入門しました。

ケニアの兄妹のお父さんは愛媛大学医学部で伝染病の研究のために、インドネシアの一般部の方々は愛媛大学で各種研究のためにそれぞれの国から留学してきています。日本の武道である極真空手を、しっかり修行したいと考えて頑張っています。



戸田道場設立5周年記念祝賀会・後援会発足式

12月17日(日)に第5回部内交流大会終了後に、道後の「ホテルメルパルク松山」において「戸田道場設立5周年祝賀会・後援会発足式」を行いました。

県内各道場から集まった100人近い関係者の方々に対して、戸田師範が組織設立の経緯と謝辞を述べた後、愛媛県大会会長である(株)新日本建設の井上秀明社長による乾杯で宴が始まりました。

また、この日企業約100社、個人約50人からなる後援会が発足し、会長に井上社長が、副会長には松尾和久愛媛県議会議員が就任して、更なる組織の発展を支援して頂くことになりました。

会の途中で本部潮見道場の小学3年生男子道場生3人によるヌンチャクの演武や、5年間を振り返るDVDの放映など趣向を凝らしたセレモニーもあり、大いに盛り上がりました。

最後は、愛媛県警極真空手部の橋本司部長(松山東署交通二課長)による天井突きで中締めをして、今後の戸田道場の発展を願いました。



寒行稽古

1月7日(日)、波方道場主催の寒行が波方町大角海岸公園で行われました。海岸をランニングして体を温め海に入り気合を入れた突きを行いました。参加した道場生は寒行の意味を深く理解し、「寒かったけど、もっと強くなれる気がする。」「来年も参加したい。」と話していました。また、寒行の後は餅つきや豚汁を食べて厳しさを乗り越えて解る楽しさを実感していました。



愛媛・香川県警・愛媛県消防が合同稽古、懇親会で「絆」を深める

1月14日(日)に本部潮見道場で愛媛県警極真空手部員と香川県桑島道場の警察官、そして愛媛県消防極真空手部員3組織17人による合同稽古が行われました。この稽古は愛媛県警極真空手部の橋本司会長が消防と香川県警に呼び掛けて、初めて行われたものです。戸田師範の指導の下、基本、移動の後、戸田師範が現役時代、犯人の制圧に非常に有効であった廻し受けを基本とした「掛け」や「掴み」を使った投げ等を長時間稽古しました。香川県警の3人の警察官は初めて習った色々な技の有効性に「目から鱗が落ちた」という表現を使って驚いていました。夜は場所を東京第一ホテルに移して親睦を深め、今後も3組織による合同稽古の継続を約束しました。



極真会館に警察の全国組織が設立される

今年2月に一般社団法人極真会館の中に警察関係者による全国組織である「全国警察極真空手協会」が設立されました。これは元警察官である戸田師範の呼び掛けで、全国の組織内に警察関係者による友好団体を作って互いに連携して、各県警内に極真空手を広めようという趣旨で作られたものです。同協会には戸田道場を初め、香川県桑島道場、関西総本部、山形県田畑道場、宮崎県山下道場が組織単位で加盟した上で、愛媛、香川、大阪、警視庁、山形の各都府県警の警察官や、交通安全協会などの外郭団体職員、少年部の警察関係者の保護者が会員となりました。戸田師範が事務局長に、愛媛県警極真空手部の橋本司部長(警部)が会長に、そして香川県警の田中晶警部が副会長に就任しました。今後は定期的に機関紙を発行する他、近隣の県警で合同稽古を行うなど関係を深めていく予定です。

戸田師範以下表彰

松山市がスポーツや武道において素晴らしい成果を達成した選手やその指導者に贈る「まつやまスポーツ笑顔大賞」が極真会館愛媛県戸田道場の師範として指導されている戸田師範に贈られました。

また、戸田師範が指導した選手の功績も素晴らしい事から、松山市在住ではありませんが、神原敏行先生、志賀賢一先生、國本明佳先輩も受賞しました。



冬季合宿

2月17日、18日に松山市青少年センターにて冬季合宿を行いました。今回の合宿においては田畑繁師範のセミナーで学んだ、大山倍達総裁が伝える『極真空手の技と精神の確実な継承』を重要視した愛媛県戸田道場の稽古内容の統一化を図る事を重要視して行いました。また、今回から冬季合宿の場所が松山の施設となりましたが、とべ動物園でのウォークラリー等のレクリエーションや、今までと違った趣向もあり道場生も大いに楽しむことができ充実した合宿となりました。



道場紹介（松山空港通り道場の巻）

松山空港通り道場は昨年12月に発足した戸田道場後援会の会長をして頂いている新日本建設(株)の井上社長の御厚意により社屋の3階フロアを使用させて頂き毎週日曜日と木曜日の週2回稽古に励んでいます。開設から3年が立ち道場生も増えやっど道場らしくなって来ました。

私たちは戸田師範から継承された極真空手を正しく受け継ぐ事を目標に初心を忘れず基本を大切にして技を出す時は必ず大きな気合いを出すように心がけています。また小学2年生以上の道場生には道場訓の暗唱を義務付けています。また稽古の終わりには「頭は低く目は高く、口謹んで心広く、孝を原点として他を益す」という極真精神を講話して技術面だけでなく精神面の修行も行っています。

こうして学んだ極真空手を空手の稽古だけにとどまらず各道場生の私生活にも活かせるようになりたいと日々稽古に励んでいます。



今後の主な行事予定

「第6回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会」平成30年10月8日(月・祝)

愛媛県武道館主道場にて開催決定！

4月	8日(日)	第20回大洲少年空手道大会	大洲総合体育館
	22日(日)	平成30年度 昇段審査	潮見本部道場
5月	19日・20日(土・日)	JFKO 第1回国際フルコンタクト空手道選手権大会	エディオンアリーナ大阪
6月	未定	昇級審査	未定
	10日(日)	2018 瀬戸内ジュニア・空手道リーグ戦(秋山道場主催)	グリーンピア玉川
	23日(土)	第23回全日本少年少女空手道選手権大会 (オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦)	エディオンアリーナ大阪
	24日(日)	第34回全日本ウエイト制空手道選手権大会	エディオンアリーナ大阪
7月	5日(日)	第4回世界ジュニア空手道選手権大会	カザフスタン カラガンダ
10月	未定	昇級審査	未定
	未定	秋合宿	未定
	8日(月・祝)	第6回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会	愛媛県武道館 主道場

第4回ジュニア世界空手道選手権大会 カザフスタン共和国にて開催

松井弥陸選手(中学2年 常盤道場)

北彩花選手(小学6年 常盤道場)

出場決定！！

